

一誌一句(受贈誌10・11月号他より)

米田透抄出

胸中に詩語のさざ波天の川

(太陽)

柴田南海子

テレワークか休みかいつの間に白露

(四季)

松澤雅世

フェイスシールドあわてて着けて葡萄壳(麻)

嶋田麻紀

分け入れば尾のあるやなし真葛原

(鹿火屋)

原朝子

日傘さして遠まなざしの女かな

(若竹)

加古宗也

椎茸がゆつくりひらきゆく厨

(雪華)

橋本喜夫

ウイルス禍眼を上ぐる蝸牛

(風羅)

三木星童

豊の秋帽子高々料理長

(いには)

村上喜代子

曲者を真つ直ぐにする酉の市

(衣)

金子嵩

薄紅葉かの手のひらは釘打たれ

(麦)

対馬康子